

校内表示のあれこれ

千葉県公立高等学校事務職員会

君津支部研究グループ

発表者

千葉県立市原高等学校

主 査 稲 村 美佐恵

千葉県立千城台高等学校

事務長 角 田 良 一

千葉県立木更津東高等学校

主査 杉 丸 真美子

千葉県立君津商業高等学校

主査 安 西 直 美

千葉県君津児童相談所

副主査 甲 斐 和 美

千葉県立岬高等学校

主査 平 野 静 枝

千葉県立姉崎高等学校

事務長 増 田 一 美

(元)千葉県立木更津東高等学校

主査 宇 野 早 苗

千葉県立君津高等学校

副主査 中 山 伊知朗

千葉県立安房特別支援学校

主査 根 本 かず江

千葉県立千葉特別支援学校

事務長 常 泉 恵 子

千葉県立館山総合高等学校

主査 岡 田 好 正

千葉県立京葉高等学校

主査 庄 司 弘 美

(元)千葉県立君津高等学校

主査 石 井 廣 子

1. はじめに

私たちが通常使用するコミュニケーションツールは、いくつあるのでしょうか？

言葉、文字、手話、身振り手振り、絵などがあると思われますが、その中で世界共通であるのは絵ではないでしょうか。

絵は、言葉がわからなくても見ることで理解できるというところが優れています。

私たち君津支部研究グループは、絵を用いて場所や行き方を理解させるピクトグラムについて調べ、校内表示等にご活用いただくについて研究することとしました。

ばれ、何らかの情報や注意を示すために表示される視覚記号(サイン)の一つです。

「絵文字」「絵ことば」の歴史は古く、古代エジプトのヒエログリフ(象形文字)にまで遡りますが、「ピクトグラム」の場合は言語によるコミュニケーションとは別で、むしろ図記号という側面が強いです。

デザインの領域では、1920年代にオーストリアの哲学者オットー・ノイラート氏が子どもの視覚教育を目的として考案した「アイソタイプ」が起源であるとされています。



2. ピクトグラムとは？

ピクトグラム(Pictogram、ピクトグラフ Pictograph とも)は、一般に「絵文字」「絵ことば」などと呼

その後、文字による文章で表現する代わりに、視覚的な図で表現することで、言語に制約されずに内容の伝達を直感的に行う目的で「ピクト」（主に人の形）を活かした様々なデザインができてきました。それらは後の「ピクトグラム」のモデルとして広く普及し、1960年代には世界的な規模で流行しました。

日本で本格的にピクトグラムが導入されたのは、1964年の東京オリンピックのときです。オリンピックともなれば、外国からたくさん観光客がやって来ます。ところが日本人は英語をあまり話せないし、海外からやって来る外国人に日本語の会話能力も期待できません。

唯一の共通点としては、一目でわかるピクトグラムを主としたサインだけだったのです。

バイリンガル表記の標識が少なかった当時の東京で、英語によるコミュニケーションを取ることが苦手な日本人と外国人の間を取り持つために開発されたのが始まりで、「いかに簡潔に競技を表記、明文化するか」、制作にはアートディレクターを務めた勝見勝氏を中心に山下芳郎氏、栗津潔氏ほか30名ほどのデザイナーが携わって様々なピクトグラムが考案されました。



ちなみに上記図案が実際に東京オリンピックの競技種目表示に採用されました。日本のピクトグラムはオリンピックに限らず、誰でもわかりやすく優れたデザインが多いです。



たとえば

- 非常口の「ドアを開けて走るピクト」
 - 公衆の場におけるトイレの男女別
 - 身障者・車椅子可
 - 乗り物の優先席（高齢者、妊婦、けが人、子連れ）
 - 工事中、立ち入り禁止などの危険信号
 - ゴミの分別・リサイクル など
- 身の回りにたくさんあります。

標識の他にも、例えば「くすりの適正使用協議会」は患者による薬の誤飲を防ぐためのピクトグラムを開発し、普及に努めています。

このように今日、公共施設、交通施設、観光・商業施設等国内の様々な施設・設備に関する案内表示、いろいろな商品の取り扱い表示などに多種多様なデザインで表示された「ピクトグラム」が利用されています。

しかしながら、誰にでもすぐわかる反面、施設や商品ごとにバラバラに表示されると、かえって混乱してしまいます。そこで、誰でも共通に理解できるよう表示に統一性が必要となり、2001年に案内用図記号の標準となる125項目を標準案内用図記号と決め、2002年からは、110項目を日本工業規格(JIS)として決めました。

これらは、私たちが様々な施設・設備の表示や商品のパッケージや説明書でよく見かける「ピクトグラム」です。一部デザインが国際規格となっている「ピクトグラム」もあります。

もちろん日本国内にいる外国人にも何の表示か理解できるよう「ピクトグラム」の下に英語・中国語・韓国語などを列記表示するよう考えられています。

他の国でも国際統一されたデザインの「ピクトグラム」が使われ、自国語の他に数カ国語を列記して表示されています。



3. ピクトグラムを活用した案内表示について

わかりやすいピクトグラムは、国内外の方を問わず、子どもからお年寄りまで一目で理解でき、目的の場所・内容がわかるという効果があります。
なかでも、色による表示の効果は、

- 赤丸に斜め線で禁止事項
- 黄色の三角(黒の縁取り)で注意事項
- 赤四角で防火・危険関係
- 緑四角で安全
- 青丸で指示事項
- 男性を青、女性を赤 など

イメージと内容を一致させることにより、効果が上昇すると思われます。

さて、自分の学校にあった「ピクトグラム」表示を作成するとなると課題は、

- 誰がみても理解しやすいデザインや表示の大きさ
- 「ピクトグラム」の作成がしやすい素材の入手
- 壁などに貼り付ける表示板の作成・据付け方法 などなど

一昔前は素人が一からデザインしたり、専門図書に掲載されているデザイン素材から作成するのはとても大変でした。かといって専門業者に作成依頼するにも費用の面で二の足を踏むのが関の山でした。

しかし、最近はパソコンの高性能化や低価格のカラープリンターの普及で、手軽にカラー印刷できるなど作成環境が充実してきました。また、インターネットの普及で、多種多様なフリーデザインの「ピクトグラム」素材が個人で簡単に無料でダウンロードできます。そのデザインをベースに自分の学校に見合った「ピクトグラム」案内を画像作成ソフトで手軽に作成できるようになりました。

支部内の袖ヶ浦高等学校では、情報の授業で生徒がピクトグラムを作成し、実際に校内で使用しています。

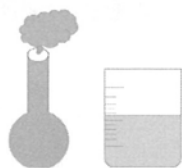
カラーで紹介できないのが残念ですが、いくつかここに紹介します。



『制服をしっかりと！』



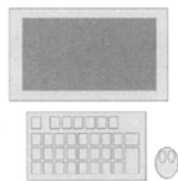
『飲食禁止』



『化学実験室』



『ゴミの分別』



『パソコン室』



『保健室』



『美術部』



『ゲームの持ち込み禁止』

こうして作成したピクトグラムを壁などに掲示する場合は、ただ壁に貼り付けるだけでは効果がありません。目につきやすい位置を考慮しないと意味がありません。

案内表示設置の参考例として、浜松市公共建築課がサイトで紹介している『浜松市におけるユニバーサルデザインの推進体制』から、視覚効果が得られる掲示方法をいくつか紹介します。

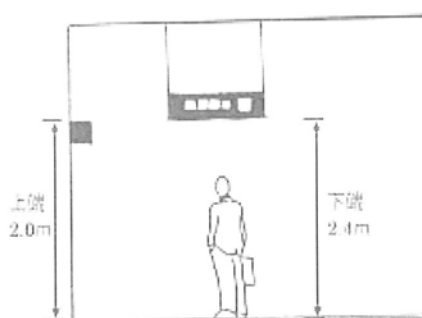
【設置場所】

- 案内表示は、建築物の出入口まで、だれもがわかりやすい位置とする。
- 受付やエレベーターホール等の動線の要所に設ける。

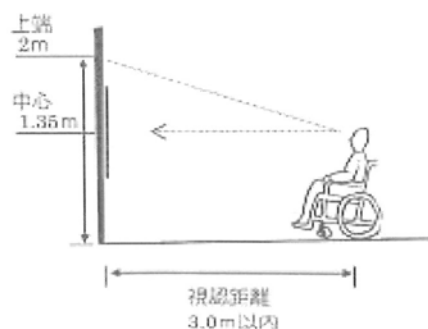
【設置方法】

設置の高さ

- 遠くから見る吊下型・突出型サインの設置高さは、車いす使用者や子供等に配慮し、サイン取付下端を2.4mとする。



- 近距離から見る壁付型サインの設置高さは、車いす使用者や子供等に配慮し、壁付型の上端は2.0m、点字を表示する場合は、中心が縦型で1.35m、傾斜型で1.0mとする。



明るさ

- 室内のサイン面の明るさは500ルクスを確保する。
- 逆光や反射グレア※が生じないように、サイン仕上げや、照明器具および照明位置に配慮する。

※反射グレア

明るい光源や窓が光沢のある表面で反射することによって生じるまぶしさ

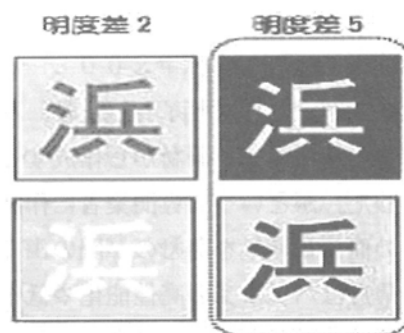
例 右写真



【標示内容】

色彩

- 高齢者や弱視の方への見やすさを考慮し、図・文字と下地の明度差は5程度以上確保する。
- 色覚障害者に配慮した色彩とする。



ピクトグラム（図記号）

- だれもが直感的にわかるよう標準化されたピクトグラムを用いる。



文字の書体

- 遠くから見るサインは、角ゴシック系で太めの書体を使用する。
- 近くで見るものや、ぬき文字で表現する場合は、やや細めの書体を使用する。

太めの角ゴシック



角ゴシック

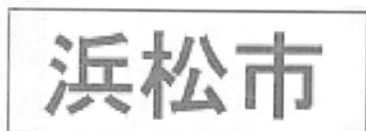


表現言語

- 日本語を基本とし、必要な場所には英語やポルトガル語などを併記する。

文字の調整

- 文字間隔は広くとる。遠くからみるサインの和文体は、平体とする。



レイアウト

- ピクトグラムや矢印と文字の配置方法に統一性を持たせる。
- 誘導サインや記名サインは短い言葉で簡潔に標示する。

その他

- サインが見やすいよう、重要性の低い掲示物は適時はがすなど、サイン周辺の張り紙等を管理する。

これらを参考に、自分で作成した「ピクトグラム」表示を見やすい位置に掲示することにより、効果的な案内表示ができると思われます。

4. 学校の現状について問題と対策

ここで、特に学校に関連するピクトグラム、案内表示について考えてみます。

(1) 学校までの案内表示

まず、学校への案内看板についてみてみます。

学校の場所を知らない来客に対して、道路に案内看板を設置することがあります。

これは当支部内のある学校の進入路となる交差点付近に設置されている案内看板です。



設置にあたっては道路管理者や土地所有者の許可を得たり、財産借用の事務手続きが必要となる場合がほとんどです。

なお、せっかく設置されていても、汚れていたり木の枝に隠れていては十分な役割が果たせないので日常管理も必要です。

また、学校は所在市町村の避難場所に指定されていることが多いと思いますが、市町村による避難場所の看板の設置方法によっては学校の案内看板としての機能も果たします。



(2) 門の案内表示

案内看板により無事正門まで到着した来客は、不審者対策で閉じられた門扉を見ることになります。

部外者は立ち入り禁止であること、必要であれば自分で開けて入ること、校内は禁煙であることの表示がされています。



(3) 門から事務室までの案内表示

無事に門扉を自分で開け、校内に入った来客はまず受付（事務室）がある玄関を目指すことになりますが、学校によっては正門からは玄関が見通せないことがあります。面談などで保護者が生徒昇降口を利用することもあるので、正門近くに玄関や生徒昇降口の案内看板を設置している学校もあります。



(4) 進路指導室までの案内表示

学校で、一般の人がよく訪ねる場所として進路指導室があります。

ここで、進路指導室への案内表示について紹介します。

1階事務室には、表示はなく、言葉で進路指導室への誘導を行います。

これは、事務室において進路の職員と連絡を取ってから、進路指導室へ行ってもらうので、対日本人の場合は、危機管理の観点からも有効だと思います。

次に廊下中程、階段のところの表示です。

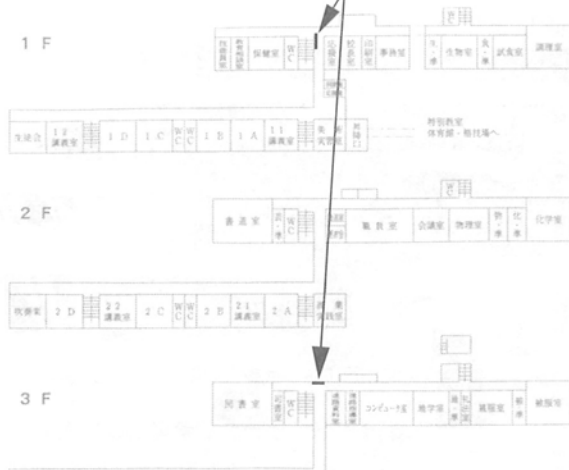


文字と絵により、3階への誘導をしています。

3階まで階段を上がると、正面に矢印と進路指導室の文字により、場所がわかりやすく表示されています。



進路指導室への案内設置場所



これまでみてきた学校に関する表示は、文字によるものが多いです。実際に「高等学校」や「進路指導室」を絵文字で表そうとしても適当な表示が思い当たらず、また、日本語が使用できることが前提で作成されているためだと思います。

(5) トイレの案内表示

トイレについての表示はどうなっているでしょうか？

来客用トイレについてある高校で改善策を施した例があるので、改善前と改善後を比較してみます。

〈改善前〉

トイレの表示はありますが・・・



柱の陰になって表示が見えなくトイレの位置がわかりません。



トイレの案内表示設置場所



〈改善後〉



廊下上部にトイレのピクトグラムを設置しました。

写真だと小さく見えますが、実際にはよく目立っています。



通行の妨げにならないよう上部に設置しましたが、丁度、3章の設置の高さで記載した下端2.4mと適切な高さになったことにより、遠くから認識でき、近くに寄ったときには、既設の表示によりトイレの位置がわかるようになりました。

（6）玄関の土足可の案内表示

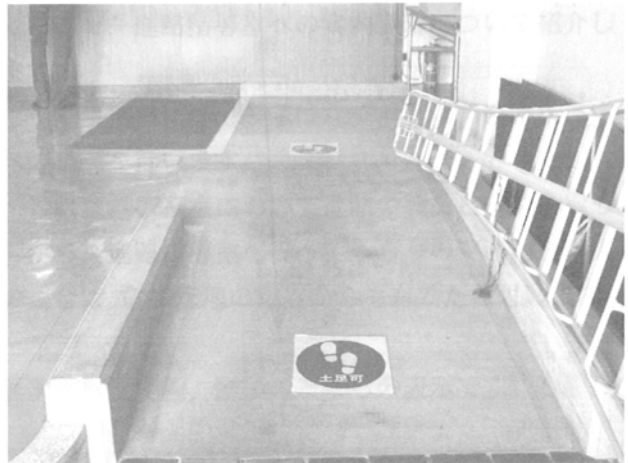
別の学校での改善例です。この学校では、来客用玄関の土足エリアがわかりにくく、スリッパに履き替えるのを遠慮される方が多く、靴下で窓口に来てしまいます。事務室カウンターでの対応中は足元が見えないため、帰るときの後ろ姿で気付くことになってしまい困っていました。

〈改善前〉



〈改善後〉

土足可の部分の床面に、考案したピクトグラムを設置しました。



表示するピクトグラムは、靴跡のマークと文字を入れ、指示する意味合いの青丸表示としました。

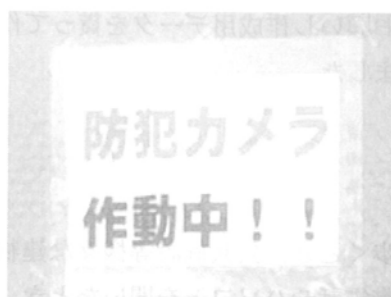
大変わかりやすく、設置後はスムーズに来客が土足で進んでこられるようになりました。

（7）防犯対策の表示

進路指導室への来客は学校としても歓迎する来客ですが、残念なことに学校には歓迎できる来客のみが訪れるわけではありません。ここ何年か学校荒らしの被害が全国的に発生しています。各校においても警備会社からステッカーの貸与を受けて玄関に貼付するなどしていますが、なかなか被害が減らせないでいるのではないのでしょうか。



常夜灯やパトライトの設置などを行ってもあまり効果があるとは考えられないのが現状ですが、支部内のある学校では、防犯カメラを設置し効果を上げているようです。



設置に際しては「防犯カメラ作動中」と文字のみの表示よりも、カメラの画像を添えたほうが効果的との助言があったそうです。



(8) その他の実践例

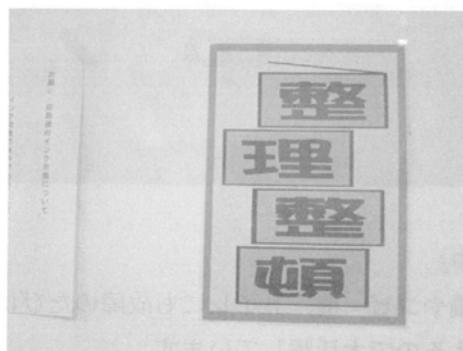
ある学校では、伝えたいこと、お願いしたいことをわかりやすくソフトに伝えるよう工夫しています。

いくつかの表示を紹介します。



『節電』

教室の電灯スイッチ上部に貼り節電を呼びかけています。単に言葉のみの表示でなく、暖色系のピンクや黄色を多用したイラストを使用し、嫌みにならないよう工夫しています。



『整理整頓』

片付きにくい印刷室や倉庫に使用しています。



『立入禁止』

子供にもわかりやすいように「×」を入れて、英語圏の外国人にも理解してもらえるように文字表現で「NO」とも入れてみました。



『食器の片付け』

給食室の入り口に、子供にもわかりやすく「○」と「×」を使い作成しました。これですと良い例と駄目な例が一目で理解できます。



『故障中』

印刷機やコピー機、トイレにも故障のたびに繰り返し使えるので大活躍しています。



『来校者の皆様へ』

玄関に吸盤フックを利用して使用しています。行事の時には別の表示が用意してあり、その時々に応じた案内を表示できるようにしています。



『案内表示入れ』

色々な案内表示は、いつも決めた場所に保管するようにしています。いつでも誰でもが利用できるようになっています。

出掛けた先で参考になる表示があるとカメラで撮影しておき、後日作成の参考にさせていただきました。また、施設にお願いし作成用データを貰って作成することもありました。

5. おわりに

今日、街を歩くとき、公共施設等様々な建物に入ったとき、携帯電話やパソコンを開いたとき、案内表示や商品の取り扱い表示など多種多様のピクトグラムに出会えることと思います。新しいデザインや、「これは使える!!」というデザインがあったら利用してみたいかながでしょうか。現在ピクトグラムは、案内表示等の情報伝達の手段だけでなく、情報機器やコンピュータ画面のアイコンにも利用され、情報社会のコミュニケーションメディアとして、日々進化しています。学校の校内表示においても、古色蒼然とした文字言語表示が多いのが現状ですが、わかりやすく、美しく、スマートなピクトグラムに進化させてみませんか。その案内表示を見て、ホッとした気持ちになれば、それは小さいながらも現在必要な心と心のコミュニケーションにもなると思います。

私たちのこの研究が、よりよい校内表示の作成にいくらかでもお役に立てれば幸いです。

参考文献

サインとマーク (株) フレーベル館

サインコミュニケーション 柏書房

魅せる看板 儲かる看板 (株) 中経出版

図解版ホスピタリティーの教科書 (株) あさ出版

現代美術用語辞典

<http://artscape.jp/dictionary/modern/index.html>

ピクトグラム&コミュニケーション

http://pic-com.jp/02_pictogram.htm

浜松市 HP「浜松市におけるユニバーサルデザインの
推進体制」視覚情報

<http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/lifeindex/study/universal/sisin/ud021.html>